



山村振興のキーポイント

地域で考え、地域で支え、地域で行動

【川根地区から学ぶ】



危機感、責任感

儲けじゃない

地域がやらなきゃ、地域がもたん

振興協議会は「トータルでの地域づくり」を目指し、福祉や教育など、儲けにはつながらない色々なことに取り組んでいる。役員もしょっちゅう集まり、単身高齢者への声がけ・宅配もすべて無報酬でやっている。過疎・高齢化が進む山村地域でみんなが生きていくためには、何事も地域として取り組まないとはいけない。

地域の誇り

自分たちの地域自慢が一番強いPR

エコミュージアム川根がオープンしたとき、大々的な広報、PR活動は特にしなかった。その代わり、地域に住む者や、嫁いだり働きに出たりした者が、親戚や友人に「うちの地域にこんな施設が出来たよ」とPRしてくれた。地域を誇りに思うことが、外から人を招くことにつながっている。

地域で考え行動する

この地域でこう生きたいという

自分たちの思いがまずなければならない

例えば「ほたるまつり」などは、比較的簡単に取り組める。しかし、手段だけを真似ても先につながらない。その意味で地域づくりの理念をまとめた「夢ろまん」が活動の全ての土台となっている。

子どもも地域づくりへ参加

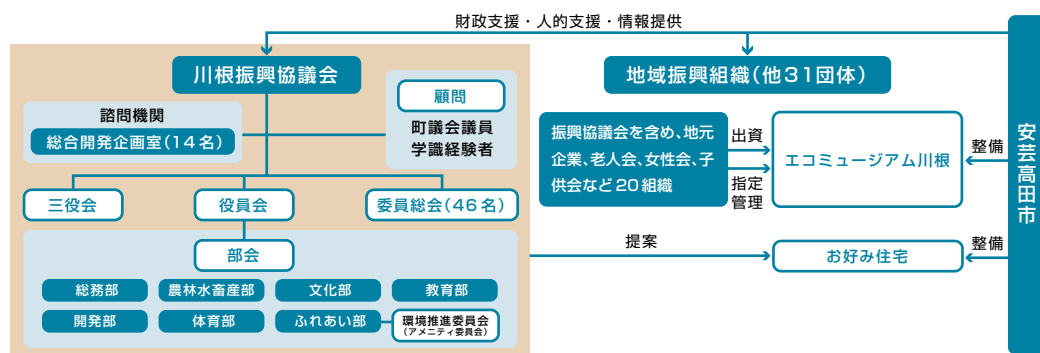
皆で地域づくりに参加し 地域への愛着を育む

道路改良でバイパスが出来るときに渡す橋の名前を、小学生が色々意見を出して「若愛橋」に決めた。完成した橋に、皆で絵を描いて、石ころを貼り付けた。このように、自分たちで地域をつくることで、出て行くにせよ残るにせよ、地域に愛着をもつような教育ができ、将来の担い手につながっていくと考えている。



活用した組織と制度

地域が行政に提案し、地域が運営する



農村の役割は、環境を守ること エコミュージアムは、その意思表示です

エコミュージアム川根 指導員 永岡賢治 氏



川根は“江の川”の支流で、自分たちが川を汚しさえしなければ、下流の（都市の）環境は保たれると考えました。以前から、都市と農村との格差が起きていましたが、いずれは農村が有する“環境”の時代が来ると考えていました。今でも、川根のように雪が多い山あいで作物が良く育たない条件の悪い地域では、都市との格差は存在します。しかし、都市と農村との関係の中で、やはり農村が役割を果たさないと、都市は理解してくれないだろう。農村の役割として、農村がもつ“環境”を守っていくべきと考えています。

環境といっても難しいテーマではなく、例えば「ホテルがたくさん棲む“環境”は、人間にとってもよい“環境”だ」という意味を込めて「ほたるまつり」を開催しています。

昭和47年以降、地域づくりへの意識で結束した

といっても、もちろん中には積極的でない人もいます。でも、やはり、年をとってから分かるんですよ。地域が支えあわないと、生きられない。年をとったら余計に分かります。

地域自治の仕組みづくりは、あせらないこと。人をまとめるというのは時間がかかるものです。川根も昭和47年からの歴史があるからこそ、今の姿があります。



今後の課題・展望

交流から移住・定住へ、担い手確保による地域活動の推進

目標1

交流の促進から 二地域居住の 推進へ

農村景観やホテルの生息環境の保全、伝統文化の継承、川根ならではの“もてなし”等により交流活動を推進すると共に、団塊の世代の活動の場の確保とその受け皿の確保対策を推進し、「二地域居住」等の新たな居住形態への対応を行っていく。

目標2

地域力・地域連携 の強化

高齢化とともに人口減少、担い手不足が懸念される中、もやいの精神による内発力を高め、地域自治機能の拡充強化を図るため、組織活動を強化し集落間連携を高める。
また、誰もが出番のある地域づくり活動の展開と、多くの住民参画のため「一人一票制」の導入を進める。

目標3

経済活動を通じた 地域活性化と 福祉活動の推進

農業生産活動を通じた地域産業の活性化として、特産の「ゆず」製品の拡販と生産体制の強化を図る。
また、経済活動とともに、高齢者が車の運転ができなくなることを見据えた福祉タクシーの振興会での運営など、経済活動と福祉活動とを結びこで地域活動の継続を図る。

関連・関係する団体

安芸高田市役所（協働のまちづくり・地域振興会） 〒731-0592 広島県安芸高田市吉田町吉田791 Tel：0826-42-2111